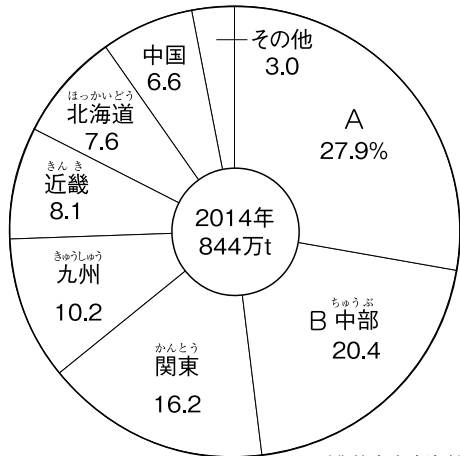


# 第 3 回 日本の稲作, 畜産業

1 <sup>いなさく</sup>稲作のようす 左のグラフを見て, 次の問いに答えなさい。



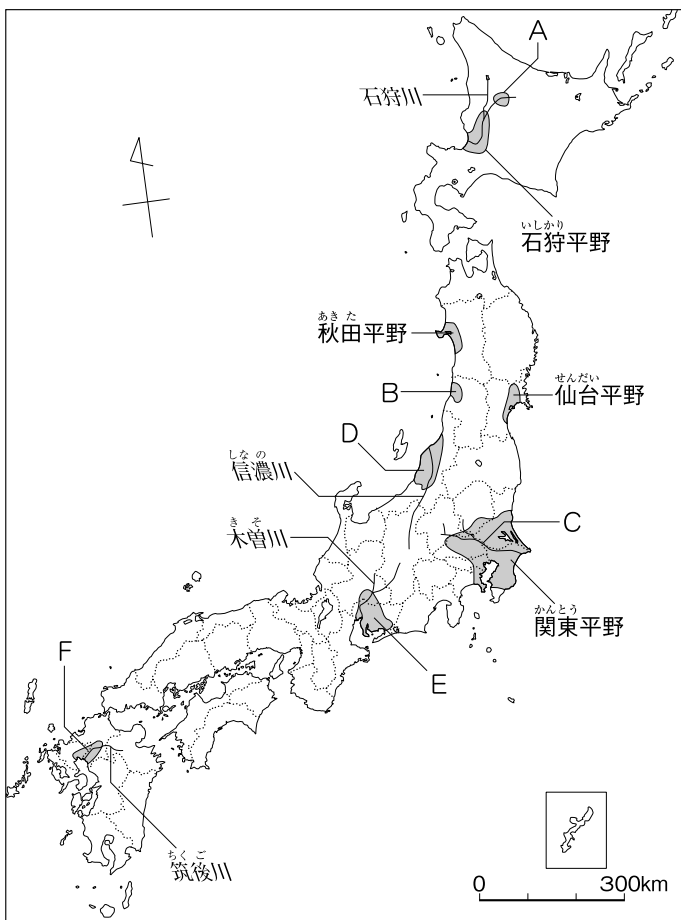
(農林水産省資料)

- グラフ中のAにあてはまる地方名を答えなさい。  
〔 〕 地方)
- グラフ中のBの地方では, 日本海に面した4つの県で特に稲作がさかんです。日本海に面したこれらの県は, まとめて何地方とよばれていますか。〔 〕 地方)
- 日本では全国各地で稲作が行われています。グラフ中のA・Bの地方の日本海側は, 春から秋の稲作が農業の中心のため, ( ) 地帯とよばれています。( ) にあてはまることばを答えなさい。〔 〕 地帯)
- 本州で米の生産量が最も多い県はどこですか。〔 〕

▲地方別の米の生産量のわりあい

- 冬でも作物さいばいができる地域の中には, 春から秋に稲作を行い, 冬には田で麦などをさいばいしているところもあります。このようなさいばい方法を何といいますか。〔 〕

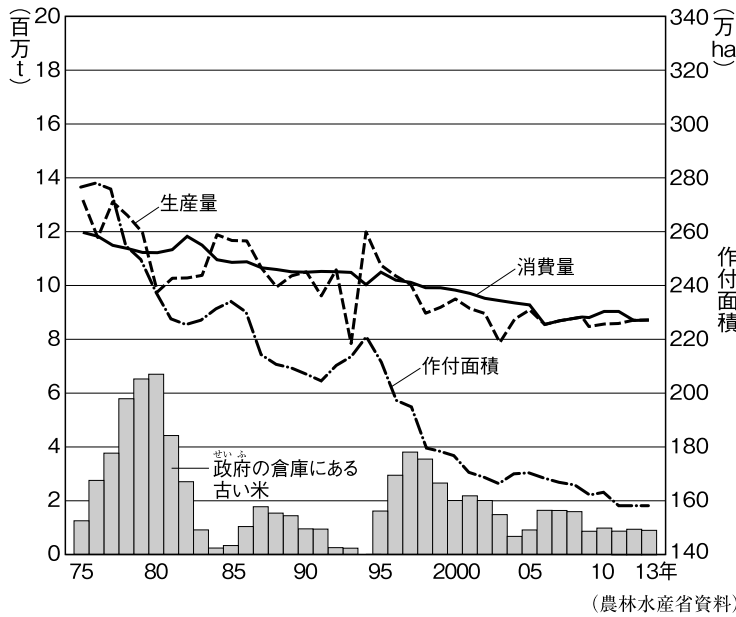
2 稲作のさかんな地域 左の地図を見て, 次の問いに答えなさい。



▲稲作がさかんな地域

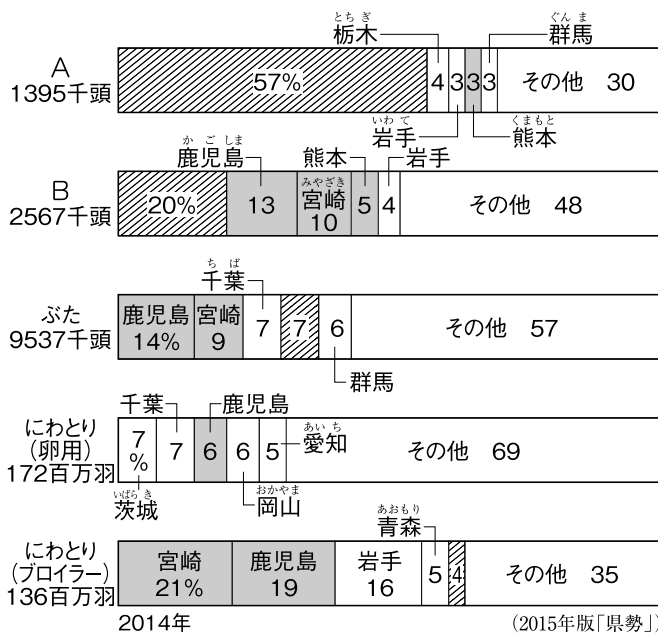
- 地図中のAの盆地は, 夏に高温となるため稲作に適していて, 北海道の稲作の中心地の1つとなっています。Aの盆地の名前を答えなさい。〔 〕
- 地図中のBの平野は最上川の下流に広がっている米どころです。Bの平野の名前を答えなさい。〔 〕
- 地図中のCの川の下流の水郷地帯では, 台風の被害をさけるために, 収かく時期の早い稲をさいばいして出荷してきました。このような米を何といいますか。〔 〕
- 地図中のDの平野は日本有数の稲作地帯となっています。Dの平野の名前を答えなさい。〔 〕
- 地図中のEの平野の西部では, 耕地を堤防でかこんで稲作を行ってきました。Eの平野の名前を答えなさい。〔 〕
- 地図中のFの平野には, クリークが残されていて, 二毛作がさかんです。Fの平野の名前を答えなさい。〔 〕

**3 米の生産と政府の政策** 左のグラフを見て、次の問いに答えなさい。

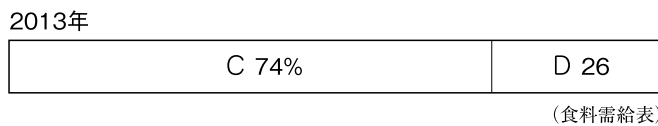


- (1) 日本の米の消費量は、どのように変化していますか。〔 〕
- (2) 2013年の稲の作付面積は、1975年にくらべて約何ha減っていますか。〔約 〕ha
- (3) 1975年から1979年にかけての時期には、米の生産量と消費量ではどちらが多くなっていますか。〔 〕
- (4) 日本の政府は、1970年ごろから米の在庫量を減らすために生産調整をすすめてきました。この政策の1つで、田で稲以外の作物をつくることを何といいますか。〔 〕

**4 畜産業のようす** 左のグラフを見て、次の問いに答えなさい。



▲都道府県別の家畜飼育数のわりあい



▲飼料の生産と輸入

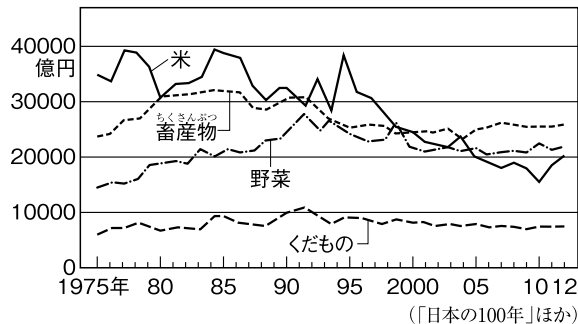
- (6) グラフ中の〔 〕の県がふくまれる地方は畜産業がさかんで、Bの家畜はこの地方でたいへん多く飼育されています。この地方はどこですか。〔 〕
- (7) グラフ中の〔 〕の鹿児島県や宮崎県の一部には、火山灰の台地が広がっていて、畜産業が発達しています。この台地を何とよんでいますか。〔 〕
- (8) グラフ中のC・Dは、飼料の国内生産と輸入のいずれかを示しています。国内生産と輸入ではどちらが多いですか。〔 〕

- (1) グラフ中の〔 〕の十勝平野や根釧台地では、畜産がさかんです。〔 〕にあてはまる都道府県名を答えなさい。〔 〕
- (2) Aのグラフの第2位以下の県は、ひかくてき大都市の近くににあります。Aのグラフは、どんな家畜の飼育頭数のわりあいを示していますか。〔 〕
- (3) (2)の家畜の飼育が大都市の近くでも多いのは、〔 〕の鮮度をたもって運ぶのがむずかしかったためです。〔 〕にあてはまることばを答えなさい。〔 〕
- (4) Aの家畜から乳をしぼり、チーズやバターなどに加工する農業を何といいますか。〔 〕
- (5) Bのグラフの家畜の飼育は、阿蘇山ろくや中国山地の草地などでさかんに行われています。Bの家畜は何ですか。〔 〕

# 練習問題

1 日本の農業生産について、次の問いに答えなさい。

(1) 資料Ⅰは、農産物の生産額の移り変わりを示しています。これを見て、次の問いに答えなさい。



① 2012年の米の生産額は、1975年以降で最も生産額の多い年の約何分の1になっていますか。

次から選び、記号で答えなさい。

ア 約2分の1    イ 約3分の1    ウ 約4分の1

② 2012年の畜産物の生産額は、米を上まわって第1位となっています。しかし、家畜の飼料は国内で必要な量の多くを [ ] にたよっています。 [ ] にあてはまることばを答えなさい。

③ 1戸の農家が数多くの家畜を飼うことを何といいますか。

(2) 資料Ⅱは、都道府県別の米の生産量を示しており、東北地方の県が多いことがわかります。これに関して、次の問いに答えなさい。

	生産量(t)	わりあい(%)
新潟	656,900	7.8
北海道	640,500	7.6
秋田	546,500	6.5
山形	423,000	5.0
茨城	412,000	4.9
宮城	397,400	4.7
福島	381,900	4.5
栃木	344,700	4.1
千葉	336,000	4.0
岩手	309,100	3.7
青森	296,500	3.5
富山	213,700	2.5
長野	202,400	2.4
熊本	187,500	2.2
兵庫	184,600	2.2
全国	8,439,000	100.0

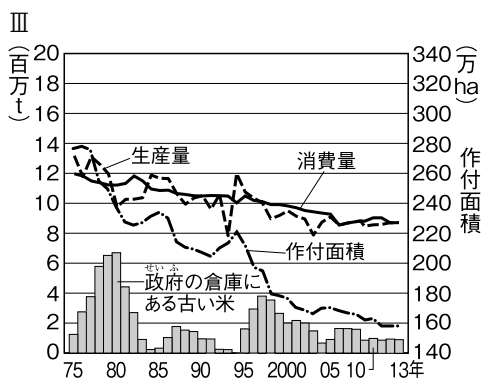
2014年 (農林水産省資料)

① 資料Ⅱ中の道県のうち、東北地方に属する県の米の生産わりあいは、合計で何%ですか。

② 東北地方と [ ] 地方は、米の生産量が多いことから、「日本の米ぐら」とよばれています。 [ ] にあてはまることばを答えなさい。

③ 冬のおとずれが早い東北地方や、台風の被害をうけやすい九州地方などでは、ふつうより早く米を収穫し、市場に出荷しています。このような米を何といいますか。

(3) 資料Ⅲは、米の生産量・消費量・作付面積・政府の倉庫にある古い米の量の移り変わりを示しています。これを見て、次の問いに答えなさい。



(農林水産省資料)

① 米の消費量は、全体的に減っています。その理由を「食生活」のことばを使って説明しなさい。

1

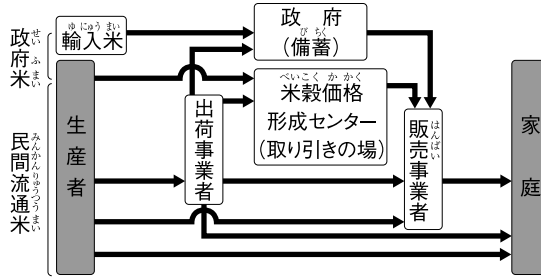
	①	
(1)	②	
	③	
	①	%
(2)	②	地方
	③	
(3)	①	

② 米の在庫を減らすため、政府は、1970年ごろから、米をつくっている農家に米の生産量を減らすよう指導してきました。このことを何と  
いいますか。

③ 田で米以外の作物をつくることを何といいますか。

(4) 資料IVは、米が家庭にと

IV  
どくまでの流れを示してい  
ます。資料IVのように、現  
在、備蓄にまわす政府米以  
外の米は、すべて民間流通  
米として自由に売ることが  
できるようになっています。



これは、2004年に何という法律が改正されたことによりですか。法律名  
を答えなさい。

	②
(3)	③
(4)	

2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

A この地域は、大部分がシラスとよばれる火山灰土におおわれ、肉牛・  
ぶた・aにわたりの飼育がさかんである。

B この地域は、信濃川の河口付近に広がる日本有数の稲作地帯で、冬に  
雪が多いため、(b)地帯になっている。

C この地域は、寒冷で作物のさいばいがむずかしかったが、広い牧草地  
にめぐまれたことなどから、パイロットファームや計画的な農村のしく  
みがつくられ、c乳牛の飼育がさかんに行われるようになった。

D この地域では、d世界有数のカルデラをもつ火山の山ろくに広がる草  
地を利用して、e肉牛の放牧が行われている。

(1) A～Dの「この地域」にあてはまる  
ところを右の地図中のア～クからそれ  
ぞれ選び、記号で答えなさい。

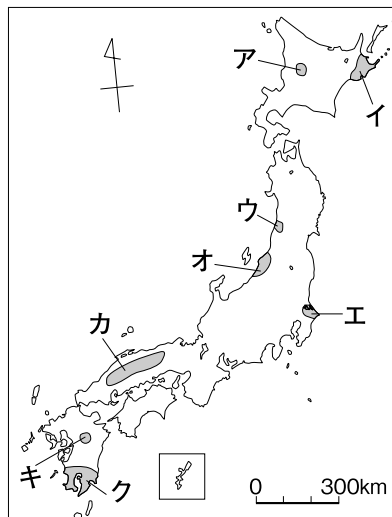
(2) 文中の下線部 a について、にわたりの  
うち、肉用に飼育されるものを特に  
何といいますか。

(3) 文中の (b) は、裏作を行わず、年  
に一度稲作のみを行う地帯のことです。  
あてはまることばを答えなさい。

(4) 文中の下線部 c について、乳牛を飼  
い、チーズやバターなどを生産する農  
業を何といいますか。

(5) 文中の下線部 d の火山の名前を答えなさい。

(6) 文中の下線部 e について、日本は多くの牛肉を外国から輸入していま  
すが、2000年から2005年の間には輸入量が大幅に減りました。その原  
因となった牛の病気を何といいますか。



2

	A
	B
(1)	C
	D
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	